



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月9日

上場会社名 オカダアイオン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6294 URL http://www.aiyon.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荻田 俊幸
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 前西 信男 TEL 06-6576-1281
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	10,715	16.6	945	21.7	946	21.9	416	△13.3
29年3月期第3四半期	9,192	4.5	777	14.4	775	12.3	479	14.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 446百万円 (6.2%) 29年3月期第3四半期 420百万円 (13.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	60.42	59.52
29年3月期第3四半期	69.48	69.05

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	18,900	7,822	41.0	1,115.34
29年3月期	15,599	7,494	47.5	1,072.95

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 7,751百万円 29年3月期 7,407百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	-	0.00	-	23.00	23.00
30年3月期	-	0.00	-	-	-
30年3月期(予想)	-	-	-	24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,300	16.7	1,250	12.9	1,250	14.4	630	△9.5	91.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	7,228,700株	29年3月期	7,228,700株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	278,771株	29年3月期	325,269株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	6,885,447株	29年3月期3Q	6,903,431株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、生産・輸出の拡大により企業収益や雇用所得環境の改善が続く中、個人消費も持ち直し総じて緩やかな回復基調の中で推移しました。また、世界経済は先進国・新興国共に回復基調が持続する一方、米国トランプ政策の動向や地政学リスク等の不透明感が残る状況が続いています。

このような環境のもとで当社グループは、主力商品の圧砕機、油圧ブレーカ、環境関連機器、林業機械等の販売に注力しました結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高10,715百万円（前年同期比16.6%増）、営業利益945百万円（前年同期比21.7%増）、経常利益946百万円（前年同期比21.9%増）と順調に推移したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益に関しては得意先の倒産関連による特別損失209百万円を計上したこと等により416百万円（前年同期比13.3%減）となりました。なお、最終的な損失につきましては今後の進展次第により減額される可能性があります。

また、平成29年10月に株式取得いたしました株式会社南星機械、株式会社南星ウインテック、暁機工株式会社に関しては当第3四半期連結累計期間から連結対象とし、新たな報告セグメント「南星」として記載しております。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別の業績は次のとおりであります。

国内セグメントは、売上高7,838百万円（前年同期比3.7%増）となりました。機種別には、主力の圧砕機は再開発・耐震建替需要が堅調で売上高は4,182百万円（前年同期比12.5%増）、油圧ブレーカは戦略商品投入やレンタル業者の需要回復により、売上高は657百万円（前年同期比27.1%増）となりました。一方、環境関連機器はバイオマス発電向けなどの設備需要はあるものの、納期ずれ解消が遅れ、売上高は711百万円（前年同期比37.0%減）と減収になりました。また、原材料売上高は889百万円（前年同期比7.5%増）及び修理売上高は585百万円（前年同期比7.9%増）となりました。

海外セグメントは、レンタル需要が回復するなど米国現地法人の売上が好調に推移した他、販売代理店拡充によりアジア・欧州も順調に伸び、売上高は2,102百万円（前年同期比28.8%増）となりました。

南星セグメントは、売上高773百万円（3ヶ月累計）となりました。販売内容の主なものには林業機械、スクラップ用機械、車載・船用クレーン、大型ウインチ、索道、ケーブルクレーン等となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は、18,900百万円（前連結会計年度末15,599百万円）となり3,300百万円増加しました。現金及び預金が496百万円減少しましたが、受取手形及び売掛金が691百万円、建物及び構築物が625百万円、商品及び製品が570百万円、原材料及び貯蔵品が482百万円それぞれ増加したことが主な要因です。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、11,078百万円（前連結会計年度末8,104百万円）となり2,973百万円増加しました。長期借入金が201百万円減少しましたが、短期借入金が1,920百万円、支払手形及び買掛金が1,109百万円それぞれ増加したことが主な要因です。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、7,822百万円（前連結会計年度末7,494百万円）となり327百万円増加しました。剰余金処分として配当の支払158百万円がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益416百万円を計上したことが主な要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、平成29年5月12日に公表いたしました通期の売上高及び親会社株主に帰属する当期純利益予想を変更しております。

主な理由は、売上高に関しましては平成29年10月に新規取得いたしました南星グループの6カ月間の売上見込を調整した事によるものです。国内セグメント、海外セグメントに関しましては概ね当初の計画通り推移しております。

損益面に関しましては、営業利益・経常利益は南星セグメントのプラス要因はありますが当初計画に見込んでいなかったのれん償却、アドバイザー費用の発生などもあり、当初の計画通りといたします。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は「(1)経営成績に関する説明」でも記載しております通り得意先の倒産関連による特別損失を計上したこと等の理由から当初見込を変更しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,264,781	2,768,419
受取手形及び売掛金	3,944,735	4,636,535
商品及び製品	1,892,279	2,462,445
仕掛品	—	182,960
原材料及び貯蔵品	1,552,294	2,034,688
繰延税金資産	183,504	242,324
その他	151,878	606,925
貸倒引当金	△2,902	△33,816
流動資産合計	10,986,571	12,900,482
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,556,619	2,181,692
機械装置及び運搬具(純額)	609,510	695,232
土地	1,722,168	1,900,722
その他(純額)	58,652	70,824
有形固定資産合計	3,946,951	4,848,471
無形固定資産		
のれん	—	198,996
その他	175,385	193,642
無形固定資産合計	175,385	392,638
投資その他の資産		
投資有価証券	341,282	388,518
繰延税金資産	81,554	70,711
その他	87,732	396,932
貸倒引当金	△20,045	△97,415
投資その他の資産合計	490,524	758,746
固定資産合計	4,612,861	5,999,857
資産合計	15,599,432	18,900,340

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,454,436	3,563,579
短期借入金	3,006,095	4,926,499
1年内返済予定の長期借入金	359,992	335,504
未払法人税等	319,400	180,118
賞与引当金	139,731	74,919
役員賞与引当金	50,460	1,591
その他	525,750	734,430
流動負債合計	6,855,865	9,816,643
固定負債		
長期借入金	892,206	690,500
退職給付に係る負債	311,106	443,533
その他	45,677	127,644
固定負債合計	1,248,990	1,261,678
負債合計	8,104,855	11,078,321
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,473,370	1,473,370
資本剰余金	1,438,935	1,483,074
利益剰余金	4,456,448	4,713,700
自己株式	△91,370	△78,478
株主資本合計	7,277,383	7,591,667
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	90,037	114,283
繰延ヘッジ損益	△7,463	2,674
為替換算調整勘定	47,057	42,921
その他の包括利益累計額合計	129,631	159,879
新株予約権	87,561	70,472
非支配株主持分	—	—
純資産合計	7,494,576	7,822,018
負債純資産合計	15,599,432	18,900,340

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	9,192,099	10,715,392
売上原価	6,548,486	7,587,725
売上総利益	2,643,612	3,127,667
販売費及び一般管理費	1,866,612	2,181,682
営業利益	777,000	945,984
営業外収益		
受取利息	3,798	3,206
受取配当金	6,863	7,683
固定資産売却益	8,207	6,139
その他	14,807	19,725
営業外収益合計	33,677	36,755
営業外費用		
支払利息	19,540	18,522
債権売却損	5,719	3,761
為替差損	3,828	10,499
その他	5,613	3,859
営業外費用合計	34,703	36,641
経常利益	775,974	946,097
特別損失		
固定資産除却損	—	18,620
製品補償関連費用	—	13,918
貸倒引当金繰入額	—	87,598
債務保証損失	—	121,726
特別損失合計	—	241,864
税金等調整前四半期純利益	775,974	704,233
法人税等	296,305	288,202
四半期純利益	479,668	416,030
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	479,668	416,030

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	479,668	416,030
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38,737	24,245
繰延ヘッジ損益	19,711	10,137
為替換算調整勘定	△117,863	△4,135
その他の包括利益合計	△59,413	30,247
四半期包括利益	420,255	446,278
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	420,255	446,278
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

特別損失に計上している貸倒引当金繰入額は特定顧客の倒産により債権総額に対して計上したものであります。また、債務保証損失は第59期第2四半期まで注記事項として開示しておりました保証債務に対するものであり、当該顧客に対する保証債務を履行したものであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	海外	南星	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,559,779	1,632,320	—	9,192,099	—	9,192,099
セグメント間の内部売上高 又は振替高	216,064	230	—	216,294	△216,294	—
計	7,775,843	1,632,550	—	9,408,393	△216,294	9,192,099
セグメント利益又は損失(△)	571,591	206,253	—	777,845	△844	777,000

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△844千円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	海外	南星	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,838,981	2,102,632	773,779	10,715,392	—	10,715,392
セグメント間の内部売上高 又は振替高	275,355	221	—	275,577	△275,577	—
計	8,114,337	2,102,853	773,779	10,990,970	△275,577	10,715,392
セグメント利益又は損失(△)	642,760	353,635	△13,937	982,459	△36,475	945,984

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△36,475千円の内訳は、子会社株式の取得関連費用△25,800千円、のれんの償却額△10,473千円及びセグメント間取引消去△201千円であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 「国内」及び「海外」セグメントに関してはセグメント区分の変更はしておりません。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、株式会社南星機械、株式会社南星ウインテック及び暁機工株式会社の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「南星」において2,759,102千円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、株式会社南星機械、株式会社南星ウインテック及び暁機工株式会社の全株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、報告セグメントを従来の「国内」及び「海外」の2区分から、「国内」、「海外」及び「南星」の3区分に変更しております。

4. 報告セグメントごとののれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間に、株式会社南星機械、株式会社南星ウインテック及び暁機工株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては198,996千円であります。